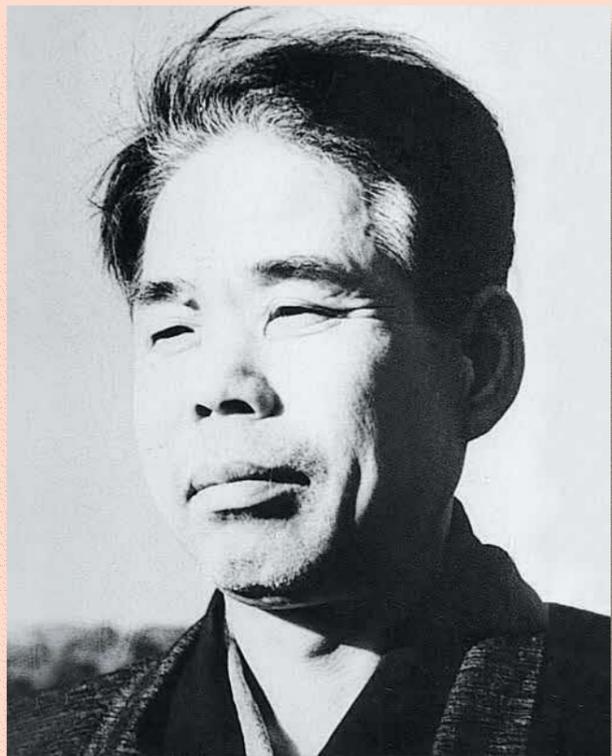


小説

うじ はら たい さく
氏原大作



山口市
(1905～1956)

氏原大作（本名、原^{はらと}阜）は、学歴は小学校高等科卒だが見込まれて十七歳で代用教員となる。昭和十三年、戦地から応募した主婦之友社募集の懸賞小説に「幼き者の旗」が一等に入選し一躍有名になった。敗戦後は古里を舞台に児童文学に家庭小説に、あるいは放送劇に健筆をふるう。作風は一貫してヒューマンで独自のユートピアの世界を描く。登場人物に悪人が出ないのも一つの特長。

（和田 健）

【主な著作】

『幼き者の旗』（主婦之友社、昭和14年）

『父なきあと』（大日本雄弁講談社、昭和15年）

『氏原大作全集』全4巻（条例出版、昭和51年）